

令和6年度第2回京丹後市総合計画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年9月27日（金）午後4時30分～午後6時30分
- 2 開催場所 峰山庁舎2階 201～203会議室
- 3 出席者 <審議会委員>
杉岡 秀紀委員、 中村 俊彦委員、 田茂井 勇人委員、 山崎 高雄委員、
西途 陽子委員、 吉岡 光義委員、 藤井 美枝子委員、 今津 正史委員、
小谷 順一委員、 角田 吉高委員、 田中 良尚委員、 上田 美知子委員、
丸田 智代子委員、 川口 勝彦委員、 味田 佳子委員、 和田 直子委員、
西原 肇委員、 阿辻 凜太郎委員、 谷 清子委員、 中村 心児委員、
岡本 竜保委員、 上羽 柚夕委員、 大島 舞歌委員、 井藤 湊都委員
- <アドバイザー>
稲岡 アドバイザー、 村上 章アドバイザー
- <委員随行者>
安田 楓氏
- <事務局>
市長公室 政策調整監 川口 誠彦、 市長公室 政策企画課長 松田 吉正、
課長補佐 井上 和也、 係長 北尻 光、 主任 上田 雅也、 主事 渡利 大洋
- 欠席者 池田 満委員、 松宮 とも恵委員、 中川 正樹委員、 平田 勝彦委員、
岡本 美香委員、 大概 美穂子委員 （以上6名）

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 議事録記録員の指名
- (4) 議題
ア 第3次京丹後市総合計画の策定に向けた市民アンケート
イ 若者暮らしアンケート
ウ 総合計画策定に向けた意見交換
- (5) その他
- (6) 閉会

5 公開又は非公開の別 公開

6 傍聴人 3人

7 要 旨 下記のとおり

議事録要旨

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

- ・ 本日は、私たちのまち京丹後市のまちづくりを今後どうしていくかの指針となる「次期総合計画」の作成に向けて、大きな柱となる目標と取組方針を議論することになる。
- ・ 具体的な細かい施策も重要だが、目指すべき「目標」や目標達成に向けてどのように取り組んでいくかといった「方針」は、市が向かうべき方向性を示すため、さらに重要だと思う。
- ・ 今日、グループワーク形式で一人当たりの発言時間も多く取れると思うので、活発に意見を出していただきたい。

(3) 議事録記録員の選定

- 上田委員、 味田委員を選定

(4) 議題ア 第3次京丹後市総合計画の策定について

- 資料1に基づき、事務局から説明
- ・ 質疑応答なし

(4) 議題イ 総合計画及び総合戦略の進捗状況について

- 当日配布資料 若者暮らしアンケートに基づき、同志社大学 轡田准教授から説明
- ・ 質疑応答なし

(4) 議題ウ 意見交換

<委員>

- ・ 第1回の審議会で、特に「稼ぐ」や「幸福度」に関連した意見を言わせていただいたが、本日配布された資料では何も変わっていないが、どうしてか。

<副会長>

- ・ 今回配布している「参考資料1・2」は、これからワークショップで使うもので、現行の計画である。前回いただいた意見と今日の議論を含めて、次回の審議会で総合計画（案）を提出することになる。
- 別紙「令和6年度第2回総合計画審議会 グループワーク」に基づき、グループワークを開始（以下、グループワーク内での意見）

グループごとに現行京丹後市総合計画の7つの目標を基にして、意見交換

グループ	設定された目標
01 産業・観光	1.歴史・文化、地場産業等の地域資源を活かしたまち
02 農林水産環境	2.美しいふるさとの自然環境を守り次代に継承するまち
03 健康・生涯学習	3.健やかで生きがいのある暮らしを実現するまち
04 安全・安心	4.安全で安心して暮らせるまち
05 福祉・地域コミュニティ	5.お互いに支え合い、助け合うまち
06 子育て・教育	6.次代を担う子どもたちが「学び」を通じて夢をいただき、いきいきと成長するまち

01 産業・観光

- ・ 地域学習のために丹後ちりめんの工場に来訪された小学校4年生に、丹後の歴史、織物について話をした。丹後ちりめんは全国の白生地9割近く、西陣帯も8～9割のシェアを占め、日本の文化の裾野を支えており、歴史や文化が全部つながっているといえる。
- ・ 建設業は地域経済を支えるインフラでもあるが、そもそも地域経済がしっかりしていないと事業ができないものである。
- ・ 京丹後市は、全国で一番会員数の多い商工会だったが、会員数は年々減少し、今2,200人くらいになっている。その中でも、伝統産業の織物部会の一番減少数が多く、2番目が商店となっている。逆に、サービス業が増えており、産業構造が変わってきている。
- ・ 6町合併するときに、当時は2030年を見据えて、今合併しておかないとこのままではこのまちは続いていかないと考えていた。
現在、転換期に来ており2050年に向けて危機感を感じている。将来ビジョンを検討しており、新しい考え方を入れていく必要がある。
- ・ 大阪観光局の方から、観光を一番上において産業をくっつけるという考え方を聞いた。サッカーのワールドカップやオリンピック等についても、この考え方でやっており、お金の規模が違う。丹後に置き換えたときに何がそうなるのか、こういった考え方も必要。また、実行していくにはこれを誰がやるかというのも必要である。
- ・ 第1次産業の重要度、満足度が低い、ビジネスチャンスのある地域。今後、10年で法人化が進んでいく。都会の方では、30代、40代の若手の担い手が出てきているが、京丹後市では若い人が魅力を感じていない。
- ・ 学校の授業で丹後を、もっと良くするために商品開発、イベント開発をやっている。小中高で丹後について学び、色んな魅力を知ってはいるが、将来的に京丹後で働く、住むとなった時に、農業、漁業などの本市ならではの産業が「やりたい職業」というわけではない。だからこそ、市内だけでなく市外からやりたい人を呼び込んでくる。
- ・ (高校)が地域の人とかかわることで、地域産業の魅力を知れるため、授業だけにとどまらず、学校全体でそのような機会を増やし、地域とのコラボ、活性化したいと移住してきた人とのコラボを増やす。
- ・ 産業で魅力を感じている人はしっかりと利益を上げられている人で、拡大・挑戦の意欲が生まれる。ぎりぎりやりくりしている人は魅力を感じない。
- ・ 借入れではなく投資の考え方が必要で、金融について学び、広い視野(世界的)から

マーケットを見て、戦略を立て「稼ぐ」ことが大事。稼げないと事業をやらないし、続けられない。

- ・ 丹後織物組合としても、観光を取り入れた産業観光（工場見学）できるものを作って、コンテンツにしている。そして、観光で集まった人が、織物、農業、食べ物など、地域の様々な魅力に触れてもらう取組を進めていく。
- ・ 後継者がいないのは親の問題もある。教育を通じて、丹後好きをいかに増やすか。また、都会に出て、広い視野を持つこと。事業承継、後継者育成には誇り、プライド、また早い世代交代が必要。革新的なことをやるのは、30代に世代交代している場合が多い。
- ・ 外に出た方が京丹後の良さが分かるので、一旦出ることは良いことだと思う。
- ・ 移住者の方々が、事業を始めるのにマーケットリサーチをして、就業時間や価格をそれに基づいて決めていて、丹後ではあまりしてなかったことではないか。移住者の方は、この地域は余白があるということを言われる。
- ・ 産業分野ではないが、金融機関の窓口から見ている感覚としても高齢化が顕著となっており、一人で困っている高齢者が来庁されるため、この方々を支援するような行政の対応が必要になってくるのではないかな。
- ・ キーワードは、「稼ぐ」「コラボレーション（連携）」

02 農林水産環境

- ・ 環境は、1年などの短期間で結果がでる分野ではない。将来的な目標をもって長期的にやっていってほしい。
- ・ アンケートの結果を見ても、関心が薄いというのが残念。
- ・ このテーマの目標についてはこのままで良いと思うので、何をしていくかが重要。
- ・ 自然豊かなまちと聞いてイメージできるまちの、取組を参考にすればよい。例えば屋久島だったらどんなことをしているだろうかと考えることが大事。何するにしても、突き抜けた取組が必要。例えば、公共施設はすべて地元産木材だけを使うなど。
- ・ 京丹後の自然の特色は、針葉樹、人工林が少ない。自然林が多いので、山の景色が違うということで、守っていないといけない。
- ・ 森林については、人工林は手入れをしないと荒れていくが、自然林は人が手を加えることが守ることにはつながらない。植林した人でも、山への関心が薄れているので、歩道整備などして山に足を運んでもらいやすいようにすることは、啓発に繋がると思う。
- ・ 高校で、農業のことは学ぶが、森林組合が授業に出向いたり、林業のことを学ぶ機会はあまりない。職場体験で来てもらうことは、以前あった。
- ・ 自分自身はペットボトルのラベルまで分別しているが、そこまでしている人がどこまでいるのか。みんなの意識を変えていくことが必要。
- ・ ゴミ箱の設置を増やせば、分別に繋がるわけではないが、ポイ捨てが減って街がきれいになるのではないかな。コンビニのごみも、分別は回収業者任せになっている。
- ・ てんぷら油から精製されたバイオ燃料は、スクールバスにも使われたりしている。

- ・ 「山、里（地域）、海、大切にするまち」という点では、近畿地方では珍しいブナ林を整備するとともに、計画に組み込む。案内看板など整備して、市内外の人に分かりやすいようにして啓発していく。
- ・ 「再生可能エネルギー等を進めるまち」の点では、再エネ、新エネは現行計画に組み込まれているが、重要度は高くないかもしれない。（市内事業者がやっている）てんぷら油からバイオ燃料を作っているプラントの視察に来てもらったり、ペットボトル等のリサイクルの先の利用のされ方が見えないので、それを分かるようにすることで理解が深まり、みんなに意識が醸成され、結果的にゴミが減るのではないかな。

03 健康・生涯学習

- ・ 来年、世界長寿サミットをするといっているがそれ自体は良いのだが、6町のうち4町しか連合会が無い中で、開催するのは現状が伴っていないのではないかな。
- ・ 百寿率が、全国の3.3倍といっているが、支えている家族、地域がどれだけ苦労しているのかわかっているか。京丹後市内の病院、医療体制をどうするかということを詰めていって、病院の在り方を考える必要がある。
- ・ 目標にあるのは、文化、芸術というものが、色んな所で活発に行われている街のイメージ。例えば、浜公園でダンスの練習をしたり、スケッチをしたり、音楽が聞こえたり、そういったものが街の中に溢れると楽しいと思う。仕事（収入）とは別の観点で、幸福、心の豊かさに繋がっていく。まずは身体が健康であることがベースにあるが、心の豊かさも大事。
- ・ 京丹後は、文化・芸術に対する関心が薄いと思う。例えば、イベントの受付の記載欄に京丹後は、住所欄があっても書かないか書いても町までだが、養父や但馬であれば、きっちりと住所を記載する。これは、文化芸術を無料で見せてもらうことがありがたいことという意識の表れ。文化・芸術の場や経験が多くあり、育まれたものだと思う。
- ・ 「稼ぐ」という言葉は、稼いだものを平等に与えるのか。稼げるものはいいが、稼げないものはどうしたらよいか。学校でも不登校の子がいる中で、地域に出ていけない、学校に来れないという子もいる中で、自立できるような教育が必要。この点、京丹後は与謝に比べて、お金を出してただけありがたい。子育てをする上で、京丹後は恵まれている。
- ・ 団体に入ると役を持って来られる、上手く使われるということから加入しないという現状がある中で、入って楽しい団体にして、繋がりを作っていくことが必要。
- ・ 「稼ぐ」という言葉は、街の中で個々の人が稼ぐというよりも、街が貧しくならないように街の力として使うネーミングとして使うのはありだと思う。稼いだら分配していくこともセット。
- ・ 「稼ぐ」という言葉が総合計画の中で前面に出ると、この会議に出ている人は全員が稼ぐわけではないということが理解できるが、全市民が分かるか、浸透させられるかということも考えるべき。
- ・ 自治と協働のまちづくりというのがイメージできない。
- ・ 歩くというのは1人でもできるが、仲間との繋がりの中で生涯スポーツをしていく方が定年後も楽しく過ごせる。繋がりというのは本当に大事。例えば、学生時代が楽しい学校だったら、繋がりが継続していて同級会とかもあって帰りたくなる。
- ・ まちは、行政が作るものではなくて自分たちで作るイメージのもので、除雪もすべて行

政・人任せにするのではなくて、みんなが動けばできるし、お金も浮いてくる。市民が一丸となって動くこと、みんなが京丹後を好きになるのが大事。

- ・ 人任せにすることがエスカレートすると、やってもらっているのに不満ばかりいうようになる。自分ができないことだけをしてもらうという精神が大事。高齢になると、時間にゆとりはできるので、草取りなどをコツコツしていただくと助かる。若い人には、力仕事など役割を分けて助け合えるまちというのは、魅力的だと思う。
- ・ 縦の繋がりをつくる場面がなくなっている。みんなで協力してやっていく取組が、繋がりを育み、街づくりに繋がる。
- ・ 親が、丹後には良い企業が無いから帰ってこなくてよいと言ってしまふ。移住者は、収入面ではなく、違う面で魅力を感じてきている。また、起業をするような人も増えてきている一方で、まだまだ農業や漁業でも閉鎖的な部分もある。
- ・ 縦の繋がりを作る中で、消防団でもそうだが上からトップダウンで下すような組織だと誰も入らない。スポーツだって、自分たちでこうやってきたというのを押し付ける時代ではない。部活でも監督は見ているだけで、学生が自分たちで決めるというところは伸びている。
- ・ 文化協会でも、6町で1000人くらいいるが、市の職員が入っていった一緒に活動している機会は少ないと思うので、入ってきてほしい。
- ・ 教員をやっていたが、普段の業務で手いっぱい、休みの日くらい自分に時間を使いたいとなってしまうので、職員も減少している中で、そもそも働き方改革が必要なのかもしれない。職員自体が生き生きと働いてもらわないと、よいまちは作れない。市職員には、もっと余裕を持って楽しく働いてほしい。
- ・ 教育現場でもそうだが、地域も現場を見て動くというのが大事。
- ・ キーワードは、「繋がり」

04 安全・安心

○「安全で安心して暮らせるまち」のイメージ

- ・ 目標については、分かりやすく、特に変更の必要なし
- ・ 目標から抱くイメージは災害に強く、安心して暮らせるまち

○「安全で安心して暮らせるまち」を実現するためにどんな取組が必要か

【防災】

- ・ 観光客に対する対策ができていない。観光業者の対応が統一されていないのではないかな。
- ・ 大規模災害時は隣近所の支え合いが大切だが、高齢化で共助の機能もいつまで維持できるのか。人が元気なうちに仕組み化して引き継いでいくことが重要。
- ・ そもそも住民が危険箇所、逃げる場所を知らない。
- ・ 実践的な避難所運営訓練を行うべき。そこで足りない部分の気づきが必ず出てくる。
- ・ 情報発信の方法も検討が必要。防災行政無線だけでは聞き逃す。

【防犯】

- ・ 昔ながらの感覚が残っており、家などのセキュリティが不十分。

【医療】

- ・ 京丹後は私立病院が2つ、民間病院も2つあり、歯科医院等の個人医院も充実している。救急体制にしても、ドクターヘリも駆けつけることができる中で、なぜ満足度が低いのか。
- ・ 一つはあらゆる疾患に対応できる総合病院がなく、場合によっては豊岡病院や北部医療センターに行く必要があることが要因かもしれない。
- ・ 公共交通の不便さも医療体制の満足度に影響しているのではないか。
- ・ 本来は病気にならないための健康づくり、予防の方に力を入れるべき。

○具体的な取り組み、事業

【防災】

- ・ 情報発信の新しいツールやアプリ（例えばLINE）を使う。
- ・ 定期的に地域で避難訓練、避難所運営訓練を行うのに合わせて、学習会を実施する。
- ・ 避難所運営に女性の意見は必要。防災の検討にあたっては女性を入れるべき。
- ・ 地域における災害時の対応を仕組み化する。

05 福祉・地域コミュニティ

- ・ 目標6に関連してだが、教育目標として「ふるさとへの愛着と誇りをもち、新しい価値を創りだす力を育む教育」というものがあり、これは素晴らしいものである。学びだけではなく、大人が子どもたちに故郷である京丹後の良いところを教えてあげることで、子どもたちが「故郷を愛する」ことに繋がり、ゆくゆく成長していった時に故郷を思い出して帰ってくるのではないか。
- ・ 丹後学では、小中一貫で、子どもたち主導の研究取組を進めている。これを目標6に、もっと中心に具体的に書いたほうがよいのではないか。
- ・ 「学び」と「郷土愛」の両面が大事。「ふるさと」という言葉は、大人からすると愛着があるが、（外に出ていない）中学生からすると、まだ当事者なので、一旦丹後を離れて、丹後を思い出したときに愛着が出てくるのではないか。
- ・ 社協の取組でおむつの宅配便をやっている。6月から、月に1回実施している。6町で、20～25人。今年度の目標が260人に対して、85人しか利用されていない。子育ては大変というイメージばかりが先行するが、子育ては楽しいことだよというメッセージを、宅配を通じて交流することで伝えている。
- ・ 子どもがいきいきと成長すると書いているが、子どもがたくさん生まれるということも大事。
- ・ 目標の順番もメッセージであるので、6番目に子育ての順番が来るのは遅いのではないか。広報で、「全力子育て応援」と書いているので、一番に持っていくべきではないか。
- ・ 30歳くらいで、経済的余裕がないので子育てまで考えられない現状がある。世帯年収が400～600万円の中で、子育てで一時的にでも1馬力減るのは深刻。京都市内と丹後の生活コストを考えると、丹後の方が高い。車の保有コストや、賃貸も環境は良いが高い。
- ・ もっと若い人たちに、お金をかけることが大事。子どもがいなければ、10年後、20年後は福祉コミュニティも老人しかいなくなってしまう。若い方が地元で住めるところ、

結婚できる環境をお金もつけて整える必要がある。

- ・ 京丹後市の子育て政策については、第三子以降保育料無料や出産祝い金など政策は充実しているが、発信面が弱く情報が行き渡っておらずもったいない。総合計画にもしっかりと盛り込んでいくべき。
- ・ 子育てまでの段階にいくと支援があるが、出会いから結婚にあたるまでの支援が無い。
- ・ 婚活イベントは、もう古い。今はマッチングアプリだが、やはり都市部が中心になってしまう。仲間、友達を求めているデイキャンプのようなライトな、大学の外部サークルみたいな、ライトなコミュニティがあると参加しやすい。
- ・ 年収 200～300 万円でも住めて子育てできるようなスタイル・仕組みを作る必要がある。それと併せて、人口減少するのは必然なので、その中でできることを計画に盛り込んでいくべき。今いる人が、楽しめるようにしていかなければならない。
- ・ 郷土愛はあり、都市部の丹後に関わるイベントがあると参加している人でも、丹後に帰ってきて何をしたいか分からないという状況で足踏みしてしまう。
- ・ 帰ってくるなどと言ってしまう親が結構いると思う。組織や役が多すぎる。
- ・ 近所等の付き合いがあるから、見守り合いができているというのはいいところ。
- ・ 人口減少の中でどう存続させていくかということで、地域コミュニティの広域化による新コミュニティなどの取組をしている。
- ・ 区費が高い。全国では、区費が 1 万円を超えるのは全国の 1 割ぐらい。
- ・ ささえ合い助け合いという言葉はきれいだが、(現役世代が) 支えっぱなし、(老人が) 支えられっぱなしの、印象を受ける。若い世代が子どもを作る余裕も無いのに、支える側に回らなければならないとなると地域から出てしまう。
- ・ 障がい者にとっては、日々の生活を支えてほしいのではなくて、理解してほしい。支援も必要だが、それよりまずは、地域で見守ってほしい。
- ・ グレーゾーンの、大人の発達障害を持っている人は結構いる。障害認定や支えるまではしなくてもよいが、生きやすくなるようにしてもらえればよい。
- ・ 支え合い、助け合いというよりも、みんなが生きやすいというのが大事。タッチパネルで申請できるなど。誰でも簡単にできるというのが具体的にできる仕組みからでも進めてほしい。
- ・ キーワード 「ふるさと」「みんなが生きやすい」

06 子育て・教育

○「次代を担う子どもたちが「学び」を通じて夢をいだし、いきいきと成長するまち」のイメージ

- ・ 学びや体験がたくさんあり、安心して子育てできる。また、学ぶだけでなく、学んだことを共有、発表できる環境がたくさんあるまち。地理的な不利とか関係なく、自分のやりたいことができ、学びたいことを学べ、他の地域や国との交流などをとことんできるまち。学びや体験がたくさんあり、安心して子育てできる。
- ・ 働いている若者が見え、たくさんの学業や職業に触れることができるまち。

- ・ 周りの大人と仲良くできる、大人から学べる、意見を言い合えるまち。目指すまちの姿として子どもと大人の距離が近く、仲良くできるまち。大人に聞いても学びを得られない、相手にもしてくれない、メール送っても全然返してくれないなど、都会、東京では人が冷たいイメージがある。
学校の先生、PTA 以外の大人、その地域で働いている人や、暮らしている人も一緒に教育、子育てに携わるイメージ。

○「目標」を実現するためにどんな取組が必要か

- ・ 中高生を対象に市で実施している Sea Labo のように、学校内を越えて交流できる、情報の共有をできるということが大事。
- ・ 地域づくりも子ども、高校生が入ってきていろんな意見を出し合うと地域がまた活性化していく。
- ・ 大事なのは、子どもと大人が平等に話し合う場、環境が必要だと思っている。例えば、まちの課題を 1 個見つけて、大人と子どもが本当にずっと議論するみたいなことが重要。
- ・ 若い社会人の先輩が学校に来て、起業する話など夢を抱けるような話をしてもらおう。
- ・ 情報を取りに行くというのが大事で、京丹後内だけでなく、学生の中に都会に出るといったことを支援するような制度や、オンラインとかで学ぶ。また学んだことを共有し、発表し合う。
例えば、クラスの中でグループごとに学んだことを共有し合うような、毎週発表するようなどにかくアウトプットを多くすることで、学びが深まるとともに自分の意見を発表できる、自分の意見を言えて成長できる人材の育成に繋がるのではないかな。また、他の人はいろんな情報を入れてもらえることになる。

➤ グループワークのまとめ発表

01 産業・観光

- ・ 6 町が合併する時には 2030 年を見据えていたが、現在 2024 年となり 2030 年が間近になってきたので、次は 2050 年に向けて考えているが、現状は危機感を抱かざるを得ない状況なので、新しい考え方をどんどん入れていくことが大事。
- ・ 若者のアンケート調査の結果を聞いたところ、第 1 次産業の重要度と満足度が低いという結果だったが、ビジネスチャンスのある地域であると考えている。
- ・ 地域の人と関わることで魅力を感じると私たち高校生は思っているので、もっと地域の方との交流や関わりを増やし、地域を活性化していきたいと思っている人とコラボしていくことを、授業だけにとどまらず、学校全体で進めていくことも大事だと思う。
- ・ 「稼ぐ」というキーワードがやはり産業を続けていく中で、1 番大事だと思っている。稼げないとまず新たな取組をできないし、今の事業も続けていけない。そのため、広く世界を見たり、マーケティング、マーケットを勉強するなど、やっぱり視野を広げることが 1 番大事だと思う。

02 農林水産環境

- ・ 市民アンケート、若者アンケートであったように、「自然」という部分には、誇り、愛着を持っているという結果がある中で、いかに、山、里、海といった自然を守っていくのが、京丹後を大切にすることにつながる。
- ・ 環境の分野については、自然を守るとか、再生可能エネルギーなどが挙げられると思うが、なかなか一足飛びにはいかなくて、今までからもずっと継続してやってきている部分があるので、それを継承していく。地道かもしれないが、そういったことを啓発していくってということが大事なのかなというような意見。
- ・ 例えば、ポイ捨てすると海に流れていくという事実を伝えるとか、ゴミ箱がコンビニでも減っていったのだから、逆にゴミ箱を増やしたらどうだっていうような意見。
- ・ 実際、今日の会議でも出しているお茶等のペットボトルについても、みなさんリサイクルで分別はしているのだから、行き先がわかるような取り組みをしたらもっと啓発になるのではないかなというような意見があった。

03 健康・生涯学習

- ・ 健やかで生きがいのある暮らしを実現するまちのイメージは、例えば公園のダンス、街角でスケッチをしている、どこからともなく音楽が聞こえる、皆が、楽しく道を散歩、ジョギングなどそれぞれが好きなことを楽しめる街。体を動かすことで身体的にも健康を続けていける。
- ・ キーワードは「繋がり」。今、団体等に属すと役員をしなければいけない、休日に動員をかけられるとかで、そういった活動が続けていけない、入ってくれないってというような問題になっている。
- ・ そういった活動する団体、繋がりを持続していくためには、入って楽しい、街は自分たちで作っていくという意識を持ち続けることが大切だろう。
- ・ 市内の活動団体に市の職員もどんどん入って、市が地域のことを分かって理解していくということも大切なのではないかな。

04 安心・安全グループ

- ・ 防災の分野では、観光客等の外から来た人に対する対応、災害時の対応というのが、観光業者の中でもなかなか共有もできていないし、仕組み化もできていないというような課題感がある。
- ・ 大規模の災害の時には、隣近所の支え合いとか共助みたいなことが大切だが、高齢化の中でその機能をいつまで維持できるかというようなことが課題である。また、そもそも危険箇所とか逃げる場所を地域の人が知らないし、知る機会がない。
- ・ 情報発信のあり方として防災行政無線が中心になるが、新たなツールとして、例えばLINEなどのアプリを使った広報で聞き逃さないように工夫することが必要。
- ・ 地道に学習会をするなどして防災の情報を地域に届けるということはもちろんなのだが、実際避難をしたことがないとかいう人がほとんどの中で、その避難所に例えば女性の支援が取り入れられているかというような実際に運営してみないと分からないこともあるので、避難運営体験みたいなことを地域でやるというようなことが大切だというような意見があった。
- ・ その他、医療体制についても満足度が低いような状況になっているが、現状、市の中で割と病院も多く、医療体制としては充実をしているのかという風な感じもするが、やは

り、交通の便が悪いとか、1つの病院で全部の疾患を見てもらえないということがこの満足度に繋がっているのではないかといった意見があった。

05 福祉・地域コミュニティ

- ・ 福祉地域コミュニティを形成する上で、少子高齢化が厳しい現状の中、継続、持続していくのが難しいため、この目標6の次世代を担う子どもたちが重要だということを話した。
- ・ 人口減少の中で、地域コミュニティの維持、継続が難しいという現状の中で、区の役や行事などを継続していくかという課題感を共有した。
- ・ 福祉の方では、目標にある「支え合い助け合うまち」というところで、実際に文言として支え合う、助け合うという文言が、実際に支援を求める人たちにとって適切なのかという話となった。「みんなが生きやすい街」であるとか、「助け」だけではなく、「理解」「協力」など、そういう地域の協力体制が築けるようなまちづくりを進めていくのが良いのではないか。
- ・ まず取組の一つとして、今の文章が中心の事務手続きとかが、障害のある方たちにとってはなかなか申請が難しいというところで、市役所の手続きを簡単なものに移行するのがいいのではないかと話が上がった。

06 子育て・教育

- ・ 目標に対するまちのイメージは、学業や職業の学びだけでなく仕事などの体験に触れることができる。またそれをみんなで共有、発表できる機会が多くあるまち。
- ・ 若者の働きが見え、将来の夢がイメージできるようなまち
- ・ 自分のやりたいことができ、学びたいことが学べるまち
- ・ 地域みんなで若者を育てるなど、安心して子育てできるまち
- ・ 具体的な取組としては、学校内だけでなく、学校同士で共有する機会、アウトプットする機会を設ける。
- ・ 地域づくりに学生が入り込む機会を増やす。地域の大人たちと、同じ課題をテーマとして平等に話し合う、議論し合う。
- ・ やりたいことを叶えるために、学生が都市部に出ていくのを支援する。オンラインでもよいので、好きなことを学べる環境を整える。
- ・ 若い社会人の先輩が学校に来て、起業する話など夢を抱けるような話をしてもらう。

<稲岡アドバイザー>

- ・ 委員の方から、「変わっていかないといけない」という話が出たことや、高校生が自分事として話されていて、素晴らしいなという風に感じた。
- ・ 一方で、人口減というところの局面にかかっている中、どうやって魅力の差別化をしていくかということが重要だと思う。他行政、特に隣接行政の取組を参考に、他の魅力がこれなら京丹後はこういう魅力で行こうみたいなことを市民と共有する。
- ・ また、ICTによる地方創生の成功事例が総務省から出ているので、市民の皆様も確認いただき、やり方や費用感を踏まえて、こんな魅力付けできるんだみたいなことを具体的に知っていただくというのでもいいのかなと思う。
- ・ 去年の1月に、各高校に1000万円のDXに関わる資金が補助される高等学校DX加速

化推進事業に、おそらく京丹後市の高校は全部申請されて通っていると思う。やはりこれからの時代を担われる若い方々については、ITリテラシーを高めていって、その人たちがいわゆるご年配の方々を引っ張っていただけるような形にできるとよりいいのかなと思う。

- ・ 今日の議論を見ている中で、若い方がものすごく元気でいいなという風に思うし、ぜひ引っ張っていただければと思った。

<村上アドバイザー>

- ・ 最近テレビでワードマイニングという言葉を目にする。どの言葉が1番多かったというのを、文字の大きさなどで表すものだが、今日のワークショップでも、そういったことをできるといいなと思った。今日は、「稼ぐ」という言葉が1番大きかったのかなという印象。
- ・ 私も行政の人間なので、総合計画に基づいて仕事をしているのだが、計画内の言葉が1人歩きをする危険性があるので、「稼ぐ」とは、どういう意味なのか、しっかり議論していただくというのは、非常に大事なことだと思った。
- ・ 委員の方々は実践者なので、どんな取組が必要かという視点の方が話をしやすいと感じた。また、その取組をなぜしなければいけないのか、その課題はなんなのか、実現しようと思ったらどんなことが必要なのか、といった視点で考えることも必要だと感じた。
- ・ もし、今後進めていく中で 参考になるようだったら取り入れていただきたらと思う。

(5) その他

- 当日配布資料（未来創生ワークショップのちらし）を基に、事務局から説明
- ・ 身近な人に参加を促してほしい。審議会に加えて市民から意見を聞く貴重な場なのでオブザーバーとして、参加できる人があればお願いしたい。
- 次回審議会の日程について、事務局から説明

(6) 閉会

<副会長挨拶>

- ・ 本日は、グループワークということで、少し形を変えて会議を行い、活発に意見を出していただけたと思っている。
- ・ この後、計画が策定されたら、皆さんにはぜひ、まちづくりのリーダーとして、実践者としてのご協力をいただきたいと思っている。